美術科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055811

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

美術科

西澤　明
共同研究者　鷲山　靖（金沢大学）

1．伝統文化教育を進めるに当たって

（1）伝統文化教育の目的の確認

グローバル化する国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で，我が国や郷土の伝統や文化を受け止め，そのよさを継承・発展させるための教育を充実することが求められている。さらに，自らの国や郷土の伝統や文化についての理解を深め，尊重する態度を身に付けることで，自分とは異なる文化や歴史に敬意を払い，これらに立脚する人々と共存することができると考えられる。

教育基本法，学校教育法においても，伝統と文化について以下のように示されている。

> 教育基本法　第１章「教育の目的及び理念」，第２条「教育の目標」，５
> 伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
>
> 学校教育法（第２章第21条３）
> 我が国と郷土の現状と歴史について，正しい理解に導き，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに，進んで外国の文化の理解を通じて，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

また，中央教育審議会の報告では以下のようにまとめられている[1]。（下線部は筆者）

> グローバル化する中で世界と向き合うことが求められている我が国においては，日本人としての美徳やよさを備えつつグローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力の育成が求められる。言語や<u>文化に対する理解を深め</u>，国語で理解したり表現したりすることや，さらには外国語を使って理解したり表現したりできるようにすることが必要である。こうした言語に関する能力を向上させるとともに，<u>古典の学習を通じて，日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受していくことや，芸術を学ぶことを通じて感性等を育むことなど</u>により，<u>日本文化を理解して自国の文化を語り継承することができるようにするとともに，異文化を理解し多様な人々と協働していくことができるようになることが重要</u>である。
> また，日本のこととグローバルなことの双方を相互的に捉えながら，社会の中で自ら問題を発見し解決していくことができるよう，自国と世界の歴史の展開を広い視野から考える力や，思想や思考の多様性の理解，地球規模の諸課題や地域課題を解決し持続可能な社会づくりにつながる地理的な素養についても身に付けていく必要がある。

[1] 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会『教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）』平成27年8月26日

（２）美術科と伝統文化教育の関連

伝統文化教育の目的及び育成を目指す資質・能力については，美術科の目標や学習内容と直接結び付く点が多い。中央教育審議会の報告[1]には，「伝統や文化についての理解は，他者や社会との関係だけではなく，自己と対話しながら自分を深めていく上でも極めて重要である」とした上で，

> 音楽，美術，工芸，書道など，芸術文化に親しみ，自ら表現，創作したり，鑑賞したりすることが，伝統や文化の継承・発展に重要であることは言うまでもない。特に，伝統的な文化にかかわっては，音楽科や図画工作科，美術科では，唱歌や民謡，郷土に伝わる歌，和楽器，我が国の美術文化などについての指導を充実し，これらの継承と創造への関心を高めることが重要である。

と記されている。

平成33年から施行される新しい学習指導要領では，目標に「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成」が掲げられており，内容において「身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り，美術文化について考える（１年生鑑賞）」「日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから，伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに，諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き，美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考える（２・３年鑑賞）」「日本及び諸外国の作品の独特な表現形式，漫画やイラストレーション，図などの多様な表現方法を活用できるようにする」「国内外の児童生徒の作品，我が国を含むアジアの文化遺産についても取り上げる（指導計画の作成と内容の取扱い）」といった表記が掲げられている。

（３）グローバル人材の育成と伝統文化教育

本校研究で研究主題の核になっている「グローバル人材」について，国のグローバル人材育成推進会議では，我が国がこれからのグローバル化した世界の経済・社会の中にあって育成・活用していくべき「グローバル人材」の概念として，以下の三つの要素に整理している[2]。

> 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
> 要素Ⅱ：主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感
> 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

前述の伝統文化教育の目的は要素Ⅲにあたるものであり，伝統文化教育とはグローバル人材の育成に必要な資質・能力の要素の一つであると捉えるのが自然だろう。それを踏まえ，美術科としては伝統文化教育を，グローバル人材に求められる資質・能力の要素Ⅲ，「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」の育成を図るための教育と捉えることにした。

（４）教科の思考力・判断力・表現力と伝統文化教育

美術科の学習活動は，作品の制作意図のよりよい実現のために表現の方法を発想・構想し，創意・工夫を試みる繰り返しであり，こうした学習活動は，まさに思考力・判断力・表現力が求められる場面である。美術科ではこれまでの実践研究で，教科の思考力・判断力・表現力を「学習活動

---

[1] 初等中等教育分科会（第 55 回）・教育課程部会（第 4 期第 13 回）合同会議配付資料
[2] グローバル人材育成推進会議『グローバル人材育成推進会議中間まとめ』(2011 年 6 月)

における課題を，さまざまな方法を用いて考え，伝える力」と捉えており，その力の基盤になるのは個々の「感性」だと考えている。それは，学習指導要領に示された教科の目標「豊かな感性や情操の育成」に合致すると同時に，伝統文化教育で育成を図る「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」の基盤でもあると考えている。

（5）伝統文化教育で育む感性

感性，とりわけ日本人としてのアイデンティティーを支える感性については，日本の季節の変化と，そこで生活する人々の思いから生まれるものではないかと考えている。

例えば日本における季節は，芽吹きや開花の春，深い緑の山々の夏，紅葉に彩られる秋，雪に包まれる冬といったように，「四季」という四つの季節の移り変わりで捉えられがちだが，実際にはそこに明確な節目があるわけではなく，自然の姿や色彩は微妙に変化し続けている。日々変化する季節の中で暮らす日本人が，その繊細な変化に気付く感性を高めてきたことは間違いないだろう。また，冬の白い雪に覆われた風景や，そこに黒々と立つ木々の姿は，侘び寂びの精神や余白に対する美意識を生み出し，再び訪れる春の明るく柔らかな風景に対するあこがれを育んできただろうことも想像に難くない。

さらに，美術品や工芸品の制作で当時使用できた色料等は，天然由来の材料であり，自ずと彩度が低く，鈍く，渋い色彩の作品や製品が生まれることになったと考えられる。そして，そうした状況は鮮やかな色に対する「あこがれ」を生み，当時は貴重であったであろう鮮やかな朱や青や緑といった色彩や金箔の輝きを，寺社や仏像，高級工芸品といった対象に用いることになったのではないだろうか。

こうした考察から，伝統文化とは単に「古くから伝わる事柄」を指すのではなく，その背景にある「日本の四季の変化」と，そこで暮らす人々の「繊細で豊かな感性」と捉えて，授業の計画，実践を行ってきている。

2．能力・態度の育成に当たって

（1）学校全体として育成する資質・能力について

本年度，本校の研究では，「伝統文化教育を通じて育成する資質・能力」について，学校全体として以下の三つが挙げられている。

① 日本の伝統や文化に関する理解
② 伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
③ 文化の伝承・創造への主体性など

昨年度は具体的な授業として，二つの学年（2，3年生）で計画，実践を行ったが，上記①～③と照らし合わせると，その内容については以下のように分析できると考えている。

2年生の「樂茶碗」の制作は，桃山時代から今日に至るまで続く樂茶碗について，その伝統や文化，歴史についての理解を図った上で，実際に手捏ねによる造形と釉薬掛けを行った（①日本の伝統や文化に関する理解）。技能の差ができにくい素朴な作業は，多くの生徒が関心を持って取り組むことができ，主体性や積極性の育成が期待できると考えられる。ろくろによる均一な成形の碗にはない武骨な形と，刷毛で塗られた釉薬の濃淡や焼き加減によって偶然生まれる色は，日本の文化が潜在的に持ち，大切にしてきた侘び寂びの心である（③文化の伝承・創造への主体性など）。

３年生「金沢のポスター」の制作は，自分達が暮らす身近な地域のよさの再確認，理解と共に，その制作に和の色や模様を取り入れることで，我が国に長く伝わってきた伝統に対する理解の深まりを狙った（①日本の伝統や文化に関する理解）。さらにポスターいう表現方法は，グローバル社会におけるコミュニケーションの方法として妥当だとも考えた（②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度）。

今年度は，２年生で「手拭のデザイン」を制作する予定だが，伝統文化を意識した活動内容としては，「日本手拭」を教材にすることはもちろん，「和の意匠と他国の意匠の比較鑑賞」「四季を表現する事物によるテーマ設定」「和の色の学習を踏まえた色の使用」「余白の美を生かした画面構成」といった観点を考えている。教科の学びとのつながりについては，「事物の単純化」「レイアウト構成」「混色による色の使用」「ゴム版の彫刻刀使用」等を学習事項と考えている。

（２）関連・連携を図った教科等について

伝統文化を拠り所とした教科間の関連・連携については，古くから伝わるものといった，伝統文化に対する漠然としたイメージを元にした具体的な事柄で行われることが多いように思われる。

美術科の学習活動の主たる目的は，発想・構想の能力や，基礎的・基本的な知識・技能に裏付けされた創造的な技能の育成であり，活動を通した豊かな感性や情操の育成である。その目的の実現を図るための具体的な題材については，各学校の実情や教師の判断にゆだねられ，設定される場合が多い。そのため，伝統文化と思しき事柄を扱うことは案外容易である。その反面，他の教科等が，美術科の教科書や年間指導計画の題材名や学習事項から直接的なつながりを見つけることは難しいように思う。そこで，昨年度は焼き物の題材として「樂茶碗」を，ポスターの題材として「金沢の伝統文化」「和の模様」を取り上げた。今年度も，パターンデザインの題材として「和の模様」「日本手拭」といった伝統文化に関する具体的な事柄を取り上げることで，他教科等との関連・連携を行いやすくした。

しかし，前段で述べたように，本来の伝統文化教育の目的は，無数にある伝統文化と思しき具体的な事柄の一部を取り上げ，その知識を深めることではなく，「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティーの育成」である。今後は，具体的な事柄で関連・連携を図るのではなく，各教科等が「日本の四季の変化」や「日本人の繊細で豊かな感性」といった観点で題材や学習内容を見直し，その学習活動の中で「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティーの育成」を意識した取り組みをすべきだと考えている。例えば「日本の四季の変化」については，社会科や理科では学習内容と直接つながりがありそうだし，英語科の学習活動における発表や会話のテーマを「日本の四季の変化」にすれば，そこにも関連・連携は生まれるだろう。「日本人の繊細で豊かな感性」についても，例えば美術科における余白の美と，国語科における俳句や短歌の世界，音楽における雅楽のメロディー，保健体育科の武道や踊りなどには日本人ならではのアイデンティティーがあると考えられ，教科間の関連・連携ができると考えている。

３．成果と課題

（１）成果

伝統文化とは何なのかを考え続けてきた。昨年度，一つの仮説として考えたのは，日本が持つはっきりとした四季の移ろいと，そこで生活する人々の美に対する感性の関係である。

その感性を表現しようとした時，使用できた自然の色料や材料は自ずと限られたものであったろう。中でも鮮やかな朱や青や緑の色が建築や仏像に使用され，屏風や工芸品に金箔が用いられたのも当然だろう。そして大半の色料はビビッドな色ではなく，彩度の低い鈍く渋い色になったに違いない。日本の伝統文化を扱う際に大切にしたいのは，表面的な結果ではなく，日本の四季と，そこで暮らす人々の生活，そしてそこから生まれる必然のアイデンティティーである。

今回実践した１年生の「落ち葉のスケッチ」と３年生の「柏葉のスケッチ」では，学校の敷地内にある桜と柏の葉に注目し，一年を通して変化するその姿や色を改めて考える機会とした。美術科の学習目標である，対象の見方，水性絵具の扱いといった基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと押さえた上で進めた作業によって，色や形の表現における生徒の発想や構想は明確なものになり，学習した知識・技能を十分に用いた作品が多く生まれたように思う。

一方，「手拭いのデザイン」の授業では，活動を通して学ばせたい美術科の知識・技能の整頓がやや不足しており，まとまりの悪い取り組みになったように思う。

（２）課題

２年生の「手拭いのデザイン」では，伝統文化に関わるキーワードとして，「手拭い」を掲げたわけだが，実際の手拭いのデザインは過去から現在に至るまで非常に幅広い展開をしてきており，小さなユニットを隙間なく全面に配した小紋だけでなく，一面に大きな図柄を配したもの，多色を使用したカラフルな物もあり，伝統文化として取り上げる意匠デザインについては，今後さらなる調査や参考作品の収集が必要だと感じている。さらに共同研究者の金沢大学教授，鷲山先生からは，伝統的な手拭いの製法は型紙を使った染めであり，はんこによるスタンプでは本来の日本手拭いの伝統が損なわれるのではないかというご指摘も頂いた。

今後はそうした反省を生かし，伝統文化についての考察をさらに深め，伝統文化と捉えられる様々な事象について事前の調査，内容の整頓をより丁寧に行ったうえで，伝統文化の何を伝えたいのかを明確にし，教材として位置付けていかなければならないと考えている。

実践事例

美術１年

授業者　西澤　明	授業日　１１　月　２　日（金）	
授業クラス	１　年　１～４組	関係・連携の考えられる教科等 国語・理科

授業内容

- 落ち葉の美しさを味わう。
- 季節の移り変わりによる変化に気付く。
- 絵の具の技法と表現効果を理解し，実践する。

教科等で身に付けたい力（本時について）	育成したい資質・能力
• 自然物の色や美しさを味わう感性。 • よく観る観点の知識。 • 絵の具の技法の知識・技能。	①　日本の伝統や文化に関する理解 ②　文化の伝承・創造への主体性など

授業のポイント・流れ

本時の活動の説明，外に移動（５分）

- 春の花の姿，夏の葉の姿，秋の紅葉の姿と変化する木々の美しさに気付く。

葉を拾う（10分）

- 先に拾った葉と次に拾う葉を比較し，より美しいと感じる葉を残す。
- 最終的に持っている葉を持ち帰る。

教室に戻って色のスケッチ（15分）

- よく観察し，様々な色や形をあらためて確認し，その美しさに気付く。
- 落ち葉の色を赤・黄・緑の絵の具のみを使って再現する混色の方法を考える。

色塗りの片付け，鉛筆で形のスケッチ（15分）

- これまでの，下描きをして色塗りという描画方法の固定観念とは異なる順序を知る。
- 色のスケッチの形にとらわれず，改めて形のスケッチをする。

作品の鑑賞（５分）

- 友人と作品を見合い，お互いの作品のよさに気付き，味わう。

実践事例

美術２年

授業者　西澤　明	授業日　１１　月　２３　日（金）	
授業クラス	２　年　３　組	関係・連携の考えられる教科等 国語・理科・家庭

授業内容

- 手拭に押すハンコの，ユニットのデザインを考える。
- 日本らしさや日本の四季の変化に主題を置いたデザインを考える。
- 実際にゴム版を彫る際の困難さを考えた，単純な形を考える。
- 連続してスタンプした時のイメージも考えながら，ユニットのデザインを考える。

教科等で身に付けたい力（本時について）	育成したい資質・能力
• テーマにしたい事象を視覚化する発想。 • 単純化，デフォルメなどデザインに必要になる知識・技能。	①　日本の伝統や文化に関する理解 ②　文化の伝承・創造への主体性など

授業のポイント・流れ

スライドで日本の諸道具を鑑賞し，日本らしい色・形態・配置とはどんな点かについて意見を出し合う。

押さえたい観点（予想される意見）
・描かれている物
・和の色
・余白の美
・配置（幾何図形と自由描画，連続，地と図，反転など）
・季節

(1) 季節，季節を表す物，その形態のデザインを考える。

押さえたい観点
・単純化，対称，強調　など

(2) 全体の配置のデザインも同時に考える。

押さえたい観点
・余白の美
・配置（幾何図形と自由描画，連続，地と図，反転など）
・単位図形の大きさ

実践事例

美術３年

授業者　西澤　明	授業日　１１　月　１９　日（月）	
授業クラス	３　年　１～４組	関係・連携の考えられる教科等 国語・理科

授業内容

- 柏葉の生命観を味わう。
- 季節の移り変わりや時間の経過による自然の変化に気付く。
- 絵の具の技法と表現効果を理解し，実際の制作に活用する。

教科等で身に付けたい力（本時について）	育成したい資質・能力
• よく観る観点の知識。 • 絵の具の技法の知識・技能 （たらしこみ，ドライブラッシュ）	①　日本の伝統や文化に関する理解 ②　文化の伝承・創造への主体性など

授業のポイント・流れ

本時の活動の説明（５分）

- 葉の色＝緑ではなく，葉の部分による色の違いや，次第に枯れて変化する色を表現する。

制作の続き（35 分）

- よく観察し，様々な色や形をあらためて確認し，その美しさに気付く。
- 表面的な色だけではなく，手ざわりや温度など，目には見えないが感じる要素をしっかり観察する。
- 観察して発見した色や形を，水性絵具のどんな技法や表現効果を使って表現すればよいかを考える。

作品の鑑賞（５分）

- 友人と作品を見合い，お互いの作品のよさに気付き，味わう。

２年生「落ち葉のスケッチ」

３年生「柏葉のスケッチ」